

作物名：水稲

病害虫名：イネツトムシ（イチモンジセセリ）（学名：*Parnara guttata*）



幼虫

1 被害状況

（1）被害の特徴

初期は葉の先を小さく綴る程度であるが、齢が進むとともに食害量は増加し、葉の先端から不規則に食害し、数枚の葉を寄せ集め、円筒状に綴る。上位葉が被害を受けた場合には、登熟の阻害、または葉が綴られ穂が折損することにより減収となる場合もある。

（2）虫の特徴

- ・成虫：体長約18～20mmの茶褐色の小さなチョウ。
- ・幼虫：淡緑色で頭が扁平，成長すると40mm程度となる。
- ・卵：直径約1mmで半円まんじゅう形，淡桃色から薄紫色へと変化。

2 生態

年3回発生。暖地系の害虫であり、幼虫で越冬する。本県では越冬が確認されておらず、温暖な地方から飛来してくると考えられる。

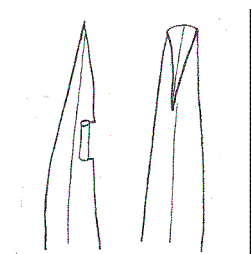
5月下旬頃に越冬世代成虫が飛来し、6月下旬頃から第1世代幼虫の加害が始まるが、発生量が少ないため被害が問題となることはない。被害が大きく防除の対象となるのは第2世代幼虫期で、通常は8月上旬頃から加害が始まる。第2世代成虫は、本県にとどまらず、越冬地へと移動すると考えられる。

3 発生しやすい条件

葉色の濃い部分に産卵することが多く、通常の移植栽培と比較して生育が遅れる晩期栽培や直播栽培で問題となることが多い。

4 防除対策

防除の対象となるのは主に第2世代幼虫で、老熟幼虫に対しては防除効果が十分でないことから、防除適期は若齢幼虫期と非常に短い期間に限られる。より高い防除効果を得るためには薬剤散布のタイミングが重要であり、若齢幼虫の形成するツトを見逃さないようにする。



右図：若齢幼虫の形成するツト

5 出典

- （1）参考文献：宮城の稲作指導指針（基本編）
- （2）写真：宮城県病害虫防除所撮影